

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991300179		
法人名	社会福祉法人 清幸会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム まつばら荘		
所在地	栃木県那須塩原市黒磯字白崖647-4		
自己評価作成日	平成30年1月26日	評価結果市町村受理日	平成30年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189		
訪問調査日	平成30年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街に立地し、さらに緑豊かな環境に恵まれています。施設理念を「地域の認知症高齢者へ家庭的で居心地のいい生活を提供します」とし、その目標に向かい、日々、利用者、家族、職員間での話し合いが活発に行われています。また、生活の中での機能訓練も大切に「できること探し」という視点で取り組むように心がけています。また、身体機能の低下や集団生活が困難になってきたときなどは家族と相談をしながら系列施設の特養への申し込みや看取り介護の説明なども行っております。職員教育には力を入れており、リーダー育成やストレス緩和に繋がる研修等も行われます。また、介護職員の業務の負担軽減を考慮した道具の活用を積極的に行い、多方面から質の良い介護ができるような取り組みを実行しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の奥に立地し、雑木林に囲まれ季節毎に自然を楽しむことができ、事業所周りは車の通行も少なく、近所の人に声をかけてもらい安全に散歩できる環境にめぐまれている。事業所理念を毎日唱和して、日々のケアの目標として大切にしている。職員は利用者のできることはその力を尊重し、毎日の利用者との会話の中で表情や顔色を観察し、やりたいことを聞き取ったり感じたりして、利用者の生活スタイルは様々だがそれぞれが居心地がよいと思えるケアに努めている。今年度は、最後までグループホームで過ごさせたいという家族の希望に沿って、家族の協力と医療との連携のもと看取りを行うことができた。今後は家族と話し合いながら、終末期の選択肢の一つとして、グループホームでの看取りに取り組んでいきたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念をもとに作成をしたグループホームの理念を玄関やフロアに掲示し、朝礼で唱和し、毎月の職員会議で確認を行い共有化を図りながら、全職員がその理念に基づいたサービスを提供できるよう心がけています	併設の小規模多機能型居宅介護施設と理念を共有していたが、グループホームの役割とは何かを理念に表したいと、平成28年当時の職員でグループホーム独自の理念「地域の認知症高齢者へ家庭的で居心地のいい生活を提供します」を作った。理念は毎日朝礼で唱和し、会議でもはじめに確認し、日々のケアの礎であり目標になっている。利用者の生活スタイルは様々だが、それぞれが居心地がいいと思えるケアに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方に回覧板を利用させていただき定期的に事業所便りとして運営推進会議や避難訓練の参加を回覧し、地域との繋がりをよりいっそう深められるよう努力しています	自治会には入会していないが、自治会役員が運営推進会議のメンバーになっている。職員の紹介や行事での利用者の様子等をのせた「事業所便り」を自治会に回覧して事業所について知らせている。地域の公民館祭りへの参加やヘルパー初任者研修の研修生の受け入れも行っている。近所を散歩する際に地域住民からの声かけや花のプレゼントなどの交流があり、徘徊時に気づいていただけるよう利用者の顔を覚えてもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて認知症の方の様子や支援方法などを説明し、理解促進を図っています 運営推進会議の中で地域の情報をいただき、地域の行事に積極的に参加できるよう努めています			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回のペースで開催し、実績や毎月の行事などの活動内容を報告しています 会議で出た意見や提案などについては、真摯に受け止めサービス向上に繋げるようにしています	運営推進会議では意見や提案が活発に出されている。職員の名前を覚えやすくしてほしいとの提案があり、日本地図に職員の出身地、名物、趣味を書き入れ掲示したところ、家族に興味をもってもらうことができた。また、「体操ボランティア」の紹介があり、3月から月2回来てもらうことになる等、話し合いの内容が運営やサービスに活かされることも多い。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から運営に関する不明な点や困難ケースなど、市や地域包括支援センターに相談し助言をいただいたりと関係性を強化しています	市高齢福祉課の職員が運営推進会議に毎回出席している。市とは、職員の配置等運営に関して不明な点を相談して助言をもらうなど協力関係を築いている。地域密着型サービス事業所連絡協議会に参加して、他事業所と情報交換しケア向上の参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを活用し、職員への周知徹底を図れるよう勉強会を行っています 玄関の施錠は、夜間のみで日中は自由に出入りができるようになっています	グループホーム会議での研修をはじめ外部研修への参加を奨励し、日々のケアの中でも気づいたらその場ですぐに注意する等、常に職員に拘束についての考え方を意識づけるよう心掛けています。徘徊のある利用者には行動パターンの把握や防犯カメラでの位置確認等で見守るケアをしています。夜間はセンサーマットを設置してベッドから利用者が立ち上がると職員が気づき介助できるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、管理者が委員となり定期的に研修の場を設け、率先して虐待防止に取り組んでいます		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	あすてらすをご利用されている入居者様があり、職員間で勉強会を開き理解に努めています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な時間を設け、ご理解いただけるまで説明を行っています 契約後も、不明な点が出てきた時には気兼ねなく質問ができるよう配慮しています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が毎朝、利用者様お一人お一人に挨拶をして回り、体調のことや困りごとはないかお伺いしています。そこで得た情報を職員に伝え、個々に対応、改善を行い運営に反映させています	管理者は毎朝利用者一人ひとりに声をかけ、体調の変化や思いに気づくよう心掛けている。季節に関する会話の中で利用者から「苺が食べたい」と聞くと職員に伝え「苺狩り」の企画に繋がったり、食べたい物が聞き取れると職員に伝え外食の企画になったりする。職員も毎日のケアや観察の中から利用者の変化ややりたいことを感じ取りたいと努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りの際、管理者も立ち会い意見や提案を聞いています。即答できる内容なら即日に回答し反映させています 普段から現状を知る為現場に出向き、職員が声を掛けられる機会を多く設けています	職員の要望や意見は、毎日朝夕の申し送りや月1回のグループホーム会議だけでなく、何時でも提案できる。業務の負担軽減を考慮した道具やキッチン用具、風呂場の手すり等の購入や尿の量の多い時のパッドの使用方法、食事の出前、弁当の日を設けて欲しい等、提案が積極的に出されている。又、退職者を出さないため職員のメンタルケアの配慮もされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者の個々の努力や実績、勤務状況を把握しており、管理者は職員個々のそれらを把握し代表者に伝えて反映されるよう努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は特に人材育成に力を入れており、研修は年間計画を立てて受講させています。また事業所に赴き、管理者や職員個々のケアの実際と力量を把握しています。法人の介護技術マニュアルがあり、それに基づき統一したケアができるようトレーニングしています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は定期的に他事業所へ赴き交流を図っている。また併設の小規模の介護支援専門員が月に一度の地域ケア会議に出席し情報を管理者に報告している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入前に施設見学や希望者様には体験利用をしていただき不安を軽減してもらいます。また、ご家族様やご本人様からできるだけ多くの情報を得ておき現場職員には必要に応じて対応するように指示しておきます。利用当日は、実調や契約等で既に顔馴染みになっている管理者やケアマネが職員に加えて対応しています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	導入前にご家族様の話をじっくり聞きます。ご家族様が話をしやすいように世間話を交え和んだ雰囲気づくりをしています。困りごとや不安、要望について管理者、ケアマネがわかりやすく親身に相談に応じ約束は必ず守り、信頼関係を築くよう努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入するにあたり、管理者、ケアマネ共に協力しご本人様とご家族様が今何を必要としているか察し、話し合い検討し幅広い視点からご本人様とご家族様が求めているサービス提供への対応をしています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は「介護」に加え「生活支援」が重要な業務であることを意識しています。ご本人様ができる家事はお願いし、急かさず見守り待つなど職員も利用者様からの優しさや元気な姿にふれ合い、生き甲斐を見出し、支え合っていることを自覚しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	地域密着型としていつでもご家族様が気軽に来荘できる環境づくりに努めています 随時ご家族様と連絡を取り合い相談し、ご本人様とご家族様の意見のバランスを取りながら進めています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	体調を崩した時には、ご本人様の馴染みの先生に連絡すると往診に来てくれるという利用者様がいます 併設している小規模多機能の利用者様の中に馴染みの方がいて自由に行き来をし交流を取っていらっしゃる利用者様もいます。現在も継続して訪問マッサージを利用している方もいらっしゃいます	馴染みの美容師がグループホームに来て利用者のカットをしていた縁で、今ではボランティアで他の利用者のカットもしてもらうようになった。併設の小規模多機能型居宅介護施設を利用していた時親しくしていた仲間がグループホームへ訪ねてきてくれたり、来所前に近所に住んでいた友人が訪ねてきたりして昔話に花を咲かせている。家族や親戚友人もグループホームの近くに住んでいるので頻繁に訪ねてきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時間には、体調不良者以外は皆様ホールに集まって頂いています 誰かが揃わないと皆で心配をするという関係が築けており利用者様同士の变化に気づいた時には職員に伝えてくれたりと助け合っている様子が伺えます また、炊事も分担し作業が偏らないよう職員が声掛けを行っております		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもこれまでの関わりを大切にしながら、必要に応じてご本人様、ご家族様の今後について相談や支援を行えるよう取り組んでいます		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や普段の様子、また、ご家族様とのやりとりの中からご本人様主体の生活が送れるよう支援しております	職員は利用者との会話を大切にして、変化に気づいたり、食べたい物ややりたいことを感じとれるよう努めている。利用者と二人になる排泄、入浴介助の時に話がやすく、寝る前に利用者が話したい様子の時は、傍でゆっくり話を聞くようにしている。チラシを見て近所のお宅にボタンの花を見に行ったり、博物館に「昭和のくらしと道具展」を見に行く等、利用者が喜んだり懐かしがったりすることを見つけたいと常に情報を集めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今年度はご家族様に「生活情報シート」などの生活歴等の情報をいただきました これまでのご様子を知ることで認知症ケアに有効活用するようにしております		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の体調管理とご本人様の意向により、その日の過ごし方を職員間で相談し合い、ご本人の希望に沿った対応をしております		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の意向を確認しながら、必要があれば医療と連携をとりながら担当者間で話し合い、介護計画を作成しています	利用者、家族から聞き取った情報を基に介護計画をたて、家族の同意を得て実践している。現場での聞き取りや会議での話し合いを参考に毎月モニタリングを行い、初めは3ヶ月目で、その後は6ヶ月毎に計画を見直している。計画変更の時は、利用者、家族、ケアマネージャー、職員でサービス担当者会議を開いている。今年度からアセスメントシートで足りない部分を補うために「生活情報シート」を家族に書いてもらい、ケアの充実に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護ケア記録、申し送り一覧に日々の様子や気づき等を残し、利用者の状況状態を周知できる また出勤時に確認し朝礼・夕礼の申し送りの再確認ともなり、職員間での情報の共有と実践に繋がっております		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況に応じ、臨機応変に通院や買い物などの支援に対応しています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々にボランティアを依頼し、マジックショーや歌謡曲、三味線による音楽鑑賞等、生活の中に楽しみや、年間の行事を通して季節の移り変わりを感じてもらえるよう支援しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院は、ご本人様ご家族様の希望に添いながら、関係性を重視し、なるべく長年診てもらっていたかかりつけ医の診察を受けられるよう配慮しています	主治医は入居前の医師を継続し、通院介助は基本的には家族対応としている。家族による通院介助の際には、バイタルや排泄、水分補給等を記載した表を渡したり、口頭で状況を伝えている。受診後は、家族から受診状況や服薬等の報告を聞き、申し送りノートや朝夕の打ち合わせ等で職員間で情報を共有している。事業所は、家族が対応困難な場合や緊急時等の通院介助、病院と交渉し服薬を減らすなどの対応をすることもある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化がみられた時には、直ぐに併設の看護職員に相談し、対応法や受診など適切な指示を仰いでいます また、訪問診療を利用している方については24時間連絡が取れる体制となっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様の方が、入院された際には出来るだけ面会に行き、状態を把握するとともにMSWやご家族様と連絡を取り合い早期に退院できるよう心掛けています 退院前には、医療現場から経過状況の報告を受けることでご本人とご家族様の意向に沿った提案や目標を立てることができています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と十分な話し合いを持ちながらご意向に沿うよう努めております 昨年から事業所での看取りについても取り組んでおります ご意向ががあれば随時取り組んでいくと同時に特別養護老人ホームや医療機関等の情報もお伝えしております	今年度までは入居時に看取りには対応できないと説明し、他の施設への申し込みを勧めていた。昨年度から事業所として看取りに関して取り組み始め、今年、訪問診療・往診をしてくれる医師・訪問看護など医療との連携のもと、同医師による職員への終末期に関する研修を行い、家族の協力があって、最後までここで暮らさせたいという家族の希望に沿った看取りを行うことができた。来年度からは、医療との連携や家族の協力など条件が整えば、家族の希望に沿った対応もできる等の終末期の選択肢を付け加えていくという。	最後まで事業所で暮らしたいと希望する利用者・家族が今後も増えてくると思われる。今後は条件が整えば希望に沿って対処していくということなので、引き続き職員の研修と利用者・家族の希望に沿ったサービスに努めることを希望する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを整備し、職員全員が把握できるようにすると共に、定期的な普通救命講習の受講にも積極的に参加しております		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の自主避難訓練と年2回の消防署員を招いての総合避難訓練を行っています また事業所の避難訓練に地域住民にも参加してもらえるよう定期的な事業所便りで訓練の実施と参加のお願いを回覧板で案内している	年2回消防署立ち会いの避難訓練を実施している。昨年度は昼間と夜間想定で訓練であったが、今年度は昼間のみであった。毎月自主訓練を行っており、夜間想定も訓練も行っている。地域には「事業所便り」を定期的に回覧板に載せて避難訓練への参加を呼びかけたが今年度の参加はなかった。災害時には、運営推進会議のメンバーの1人である自治会役員に連絡すると、避難した利用者の見守りなど地元の協力を得られるようにしてある。災害時用に3日分の食料と水を備蓄しており、石油ストーブや発電機も備えている。	災害時には近隣住民の協力が得られることになっており、避難訓練への参加も呼びかけるなど地域との連携に努めているが、今年度は避難訓練への参加者がいなかった。災害に備えて、近隣住民が避難訓練へ参加し、一体となった避難訓練が実現できるよう引き続き努力することを期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同じ高さか、やや下の目線の位置でお話しています 介護は「させて頂いている」という気持ちで、言葉使いは必ずおうかがいをたてる言葉遣いを心がけ、命令言葉を使いません また入浴は、お一人ずつ、排泄介助は丁寧かつ迅速に行っています	声かけの際には「～しましょうか」という話し方を心掛け、命令口調にならないように気をつけ、目線もなるべく低い位置にしている。トイレ誘導の際にも周囲に気付かれないような声かけに努めている。家族や近隣に向けそれぞれ「事業所便り」を発行しているが、利用者の顔写真の掲載は家族等の了解が得られた人だけにしている。一人ひとりにとって何がよいのか快適に過ごせるのかを考え、それぞれの人格を尊重し、プライバシーの確保に努め利用者のサービスに当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	遠慮しがちな人、内向的な人には行動や表情から訴えや思いが汲めるように職員に観察力を養う努力をするよう促しています お一人お一人の思いを表現できるよう信頼関係の構築と環境、雰囲気づくりをする努力をしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	こまめな声掛けを行い、ご本人様の意向を確かめながら過干渉、ほったらかしにならないようにしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身の希望の衣類が着用できるよう選んでいただいております 外出の時は、帽子や希望のかたにはお化粧をし、鏡で確認をしていただいております 普段の生活の中でもご本人様が着ている服や髪形に興味を示すお声かけをしています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表を1か月単位で作成しご利用者が楽しみを持てるよう掲示しております 芋煮会など行事の際にはご利用者に野菜の皮むきをしていただいたり、日常の準備や後片付けも職員と一緒に行っていただいております	基本的には併設の施設と共同の調理室で調理専任の職員が食事を作っているが、ごはんや味噌汁、朝食や調理専任職員が不在の時にはグループホームの職員が作っている。献立表は併設の小規模多機能施設とグループホームの介護職員が利用者の意見を取り入れながら隔月ごと交替で1ヶ月分を作成している。食事の手伝いは年々難しくなっているが、配膳用トレイの消毒や食器洗い、行事食の時の野菜の皮むき等を手伝う利用者がいる。今後は、利用者の希望に沿って外食や出前の機会を増やすなど、楽しい食事を増やしていきたいとしている。	毎日の生活の中に非日常的な楽しい食事の機会も必要と思われるので、利用者の希望に沿って外食や出前などを増やすよう努力することを期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の食事、水分の摂取量を記録、把握し健康管理に役立てています 水分の必要量が摂取しにくい利用者様にはゼリーやヨーグルトなどのど越しのよい物に代替えて提供しています 食事は、咀嚼・嚥下の状態に合わせ適切な形状で提供しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じて義歯洗浄、歯磨き、うがいの声掛け、誘導、促し、介助をしています 口腔ケアに使用する歯ブラシ、コップも毎晩消毒、乾燥しています 口腔内の状態も確認しています		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿、排便の記録をつけています 居室9部屋に対して個室トイレが4か所あり、トイレは各居室から近くて便利です オムツをしている人でも尿便の訴えあればトイレで排泄する援助をしています	一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々のタイミングやそわそわするなどの様子を見て誘導するなど、日中は可能な限りトイレで排泄するよう支援している。夜間についても、センサーマットを設置してきた時にトイレに誘導したり、部屋にポータブルトイレを置いておくなど排泄の自立を支援している。病院からの退院時にはオムツ使用であった場合でもトイレでの排泄にまで改善させた事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をつけ個々のパターンを把握しています 記録にはご本人様が何日排便がなかったかが一目で分かるようチェックシートを使用しています 適度に体を動かす、水分こまめに摂取し日常生活から気を付けています 自然排便が困難な方には医師に相談し処方された下剤を適宜使用しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の入浴予定日は、受診や外出予定を考慮してきめています カレンダーに入浴日の印をつけ、それによって利用者様はその日を楽しみにし、入浴準備を済ませ待っていてくれます それぞれ計画的に過ごされるので入浴時間はゆっくり自分の時間として楽しまれています 変わり風呂も毎月提供しています	入浴は、午前中に個浴で週2～3回を基本としているが、午後の入浴や二日連続で入るなど利用者の希望に沿った対応もしている。入浴を拒否する利用者に対して、家族に説得をお願いしたり、時間や人を変えて再度誘導するなどの対応をしている。ゆず湯やハーブ湯など変わり風呂も提供している。お湯の温度もその人に合わせて温度計だけでなく職員が自分の手で確認するなど、一人ひとりが気持ちよくゆったりと入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の居室は、夜眠るだけのためのものではなく昼間でも自身のプライベートスペースとして休息やくつろぎの場所として活用されています 室温や寝具の調整、照明など個々に合わせて用意し、安全かつ安心してお休み頂いています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診介助を行なっている事により職員が直接医師や薬剤師から薬の情報を聞くことができます また、薬の説明書を個人ごとで内服薬ファイルに保管している為いつでも確認することが出来ます 症状の変化については早期発見と適切な対応に努めております		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ショッピングの好きな方、散歩の好きな方には外出やドライブの機会を設け、縫い物が得意な方には職員も一緒に縫い物をし、音楽の好きな方には生演奏に合わせ歌う機会、料理の好きな方や特技を持っている方には材料や道具を揃える支援と見守り、時に職員が教えてもらったりしています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員が業務上、買い物等に出掛ける時、支障がなければ「一緒にいきませんか」と声かけをしたり、希望があれば一緒に出掛けます 天気の良い日には外に散歩に出かけます 近所を散歩中にお花をいただくなど地域との交流も行っております ドライブが好きな方には併設の通いサービス時の送迎車に同乗することもあります	日常的な外出として、天気の良い日に敷地内や近所を散歩している。散歩の途中、趣味で桜草を栽培している人から桜草をいただくこともある。あじさいや紅葉狩りなど季節を感じる花を見にドライブに出かけている。日用品の買い物や薬の受取など職員が出かける時に利用者に声を掛け一緒に出かけることもある。併設の小規模多機能型居宅介護施設の送迎車に便乗してドライブしてくる人もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は保管していませんが、有料の博物館見学時は入場前にお渡しし、職員見守りの中、支払いをもらったりしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙のやり取りは自由にして頂いています 希望があれば電話を渡しかけていただいています 年賀状が届いた時にはご家族様来荘時にお伝えしています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が編んでくれた縄をフロアに飾ったり、編んでくれた籠を利用させていただいています 四季の変化や行事にはフロアや廊下の装飾を変え季節の移り変わりを感じていただいております 観葉植物や、生花なども利用者様と一緒に水やりを行っております	食堂兼居間は、天井が高く広く、天窓やガラス戸から入る光で明るく居心地の良い空間となっている。居間や廊下には、季節毎に制作した利用者の作品を飾り、職員手作りの一輪挿しに小さな花が生けられているなど、季節を感じられる工夫がされている。玄関から入るとすぐの廊下に椅子が置かれていて、外を見ながらの利用者と家族の面談や利用者同士の語らいの場となっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内には食事コーナー、テレビコーナー、リクライニングコーナー、ソファコーナー、廊下には気軽に読書が出来るよう本棚も用意しており、ベランダに季節の生花を植えており、フロアから観賞できるようにしております また、気の合った利用者様同士で部屋を行き来できるよう自由に過ごしていただいております		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やご本人様の気に入った雑貨などを活かして家庭的な居室になっています 好きな動物のポスターや、お孫様やご家族様のお写真を飾っている利用者様も多くいらっしゃいます	居室にはそれぞれ「百村」「畑下」等地元ならではの地名が付けられている。テレビや仏壇などの家具を持ち込み、壁には家族の写真や誕生日の御祝いカードを飾るなど、それぞれ思い思いに居心地の良い居室空間を作っている。気に入った利用者同士が部屋を出入りし、部屋で会話を楽しむ姿が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチンには車椅子の方でも炊事の参加ができる流し台があります 浴槽は1人用で使いやすく大きさ深さともちょうど良いです 階段、段差なくすべてバリアフリーです 必要に応じ介護用品を用意し、滑り止めや浴槽内の椅子なども使用しております		